

〔最優秀賞〕

◇ 私の父



あそ野学園義務教育学校 6年 清水 聖乃

私は今6年生で、11月に12歳になります。母が辛い経験を経てやっと生まれた私は両親からとても大切に大切に育てられました。特に父は私が赤ちゃんの頃から、オムツ替えやミルクの調乳、沐浴や寝かしつけ、何から何まで積極的に育児に関わってくれたそうです。言ってみれば今流行の「イクメン」です。そしてそのスタイルは今も変わらず、ずっと続いています。私が病気になるとうちが喉を通らない程心配して、付きっきりで看病してくれます。

父はまた、家事も手際良く何でもこなします。洗濯や食事の支度、後片付け等、日常ごく当たり前に行っています。そんな父の姿を見て育った私は違和感を覚えたことはありませんでした。でも母から

「パパみたいな家事育児に協力的な男の人は珍しいと思うの。ちょっと前の時代なら、男だからと、受け入れてもらえないかもしれないのよ。」

と聞きました。驚いた私は父に尋ねてみました。すると父は

「やれる人がやればいいんじゃないのかな。ママが忙しそうだから、パパがやってるだけだよ。手分けしたら早いでしょ。」

父の中で、家事育児は男の仕事女の仕事というくくりはないのです。だから、相手を思いやる気持ちから自然とさり気なく手が出るのだらうと思いました。そして何より生き生きと楽しそうにしています。父の考え方はとても格好いいです。

実は私の祖父も洗濯等の家事をして祖母を手伝います。祖父は父を含め四人の子供がいたので、やはり育児に追われる祖母の負担を軽くするために、自分の出来る範囲で積極的に家事育児に関わってきたそうです。我が家は、代々この「相手を思いやる精神」を受け継いでいるわけです。今より理解のない時代に、祖父は立派だと思いました。

この作文を書くにあたり、初めて「男女共同参画」という言葉を耳にしました。調べてみると「男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会」とありました。私は将来、祖父や父のように理解あるパートナーと結婚し、自分らしく輝ける職業に就きたいです。私の幼稚園の担任の先生は優しくて気配りの出来る男の人でした。私の家に点検に来る警備会社の人には強そうで頼りがいがありそうな女の人です。私の行く病院の看護師さんは親切な若い男の人です。どの人も自分の仕事に生きがいを感じ、キラキラして見えました。男の仕事女の仕事と言う概念にとらわれることなく、自分のやりたいことを思いっきり出来る社会であってほしいです。一人一人が性別を意識することなく、お互いの個性を理解し合うことがとても重要です。まずは私自身がそんな人になりたいです。